

難病をなくしていく

森 悟志

僕の将来の夢は「難病で苦しんでいる患者のために治療法を確立すること」だ。二十世紀に入って医療技術は急救に進歩をした。それでもなお、世界には完治や治療さえできない病気が数多く存在する。僕はそんな難病を抱えている患者を将来救いたい。

二〇一九年現在、厚生労働省が指定している難病は三三三種類で、約一五〇万人もの人々が難病を患っている。難病のことを一般的に「不治の病」「治りにくい病気」と言うように、難病は治療方法が不確立なもので、長期にわたって療養が必要な病気である。そのため、難病患者にはリハビリや対症療法など、治療するしか方法はない。難病の種類の中に、「ALS（筋萎縮性側索硬化症）」と、いうのがある。この病気は、体を動かす神経が何かしらによって障害を受け、運動や呼吸に必要な筋肉が徐々に衰えていき、最終的に

筋肉である心臓が止まってしまいうものだ。A
LSの発症原因が解明されていらないため、治
療は痛み軽減や自然治癒力の促進を図る对症
療法のみである。また、对症治疗は「症状も
乗にするもの」なので、患者としては単なる
その場しのぎだと落ち込める人も多い。このA
LSのように難病というのほ、そもそも発症
する根本的な原因が分かっていないものが多
く、今存在している方法の中で一番効果があ
るものを治療法としてしているものにすぎないの
だ。

今の世の中にはまだ難病が残っている。先
ほど書いたように三三三種類。かなりあるじ
やないかと思う人もいるかもしれない。でも
僕はモーツァルトのある言葉を本当だと信じ
ているから、難病そのものを近い将来なくす
ことができると思っっている。そのある言葉は、
「多くのことをなす近道は、一度にひとつの
ことだけをすることだ」。一種類ずつ地道
に原因究明・治療法確立していくことで、三

三三種類もの得体の知れない病気が次々も
完治する病気に変わって行く。そして、難病
がなくなつた後に、誰しもが安全な治療を受
けて、元難病を完治できる世界がやってく
る。僕はそのシナリオを完全に実現させた
い。